**「こめっこ」について**

別紙①

1. 事業目的

聴覚障がいのある乳幼児とその保護者が、自然に獲得する言語として、手話を選択しようとするときに、そのことを支援する環境を整備する。

1. 実施概要

平成29年6月より、以下のとおり、乳幼児手話獲得支援事業「こめっこ」を実施。

※各回の実施概要は別添①参照。

（日時・場所）

○原則、月2回開催（第1・第3土）。

○場所は、基本的に、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）。

（主なプログラム）

○各回、2時間半のプログラム。以下の形式にて実施している。

※すべての時間帯に手話通訳を配置。健聴の保護者に対しても情報保障を図っている。

|  |  |
| --- | --- |
| 前半（1時間） | ・親子一緒に、絵本の読み聞かせや手遊び・からだ遊びなどを通じて、楽しく手話に触れる。 |
| 後半（1時間半） | ・親子分かれて、河﨑教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）を中心に、保護者相談（聞こえのこと、子育てのこと）に対応（その間、子どもは自由遊び）。手話（しゅわ）ろうタイム。 |

○また、子どもの年齢層や保護者のニーズ等を踏まえ、以下のとおりプログラムを拡充。

〔例〕・参加する子どもの年齢が幅広いため、第2回以降は、「0・1・2歳児」と「3歳児以上」にグループ分けして、遊びや相談対応を行っている。

・保護者からの「簡単な手話を学びたい」というニーズを受け、第4回以降は、簡単な手話を学べる「手話ろうタイム」を実施。※動画をフェイスブックで公開

・第6回は、「一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi」「大阪府広報担当副知事もずやん」をゲストに招き、手話によるパフォーマンスを取り入れた特別企画を実施。

・保護者向けにミニ講演会（専門家の話や聴覚障がいのある方の体験談等）を実施。

（子どもの参加者）

○各回、30人程度。「保護者に聴覚障がいがなく、子どもに障がいがある」以外にも、きょうだいでの参加、「保護者に聴覚障がいがあり、子どもに障がいがない」など、様々な参加があり、ほとんどがリピーター化。毎回3人程度の新規参加あり。

○参加する子どもの年齢は、0～13歳と幅広く、中心層は2・3・4歳児。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 第1回(6/17) | 第2回(7/1) | 第3回(7/15) | 第4回(8/5) | 第5回(8/19) | 特別企画(9/2) | 第6回(9/16) | 第7回(9/30) |
| 参加者数（人） | 合計 | 75 | 68 | 54 | 44 | 44 | 55 | 55 | 35 |
| 子ども | 38 | 34 | 27 | 24 | 23 | 29 | 28 | 19 |
| 保護者 | 37 | 34 | 27 | 20 | 21 | 26 | 27 | 16 |

（実施体制）

○河﨑教授のスーパーバイズのもと、以下の体制で実施。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 人数 | 役割 |
| スーパーバイザー | 1名（河﨑教授） | こめっこ全般に関するスーパーバイズ |
| メインスタッフ | 2名（大聴協職員） | こめっこの企画・運営、事務など |
| サブスタッフ | 5～7名※臨床心理士、手話通訳士、大学生（教育学部）など | 企画・運営の補助、当日の活動のサポート |
| ボランティアスタッフ | 0～4名 | 受付、当日の活動のサポート |

※ろうのスタッフは、子どもたち、保護者にとってのロールモデルでもある。

1. 中間決算

※別添②参照

1. 取組みの効果

○小さな子どもが簡単な手話を使い始めている他、保護者から、「決して1人じゃないんだと安心した」「未来が少し明るくなった」といった声が寄せられており、手話の獲得以外にも効果あり。

○保護者同士、子ども同士で、地域を超えた交流が生まれている。

○メディアに取り上げられるなど、「こめっこ」の取組みに対する理解が広がっている。

○乳幼児の手話言語獲得に関わる関係機関で構成する「乳幼児期手話言語獲得支援ネットワーク（事務局：大阪府）」から、「こめっこ」の派遣依頼が寄せられるなど、「こめっこ」との具体的な連携にも発展。